



NO. 725
発行
11・5月30日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
関川 和彦
編集責任者
教 宣 部

今後の対応について



国労本部は、5月13日に開催された全国代表者会議に、「東日本大震災」に対する今後の対応について説明がありました。
国労震災対策本部ニュースに詳しく記載されています。

(国労本部・ニューズ記事より)

地震により、多くの尊い人命と国民の財産が消失しましたが、国労組合員をはじめとするJRに働く多くの労働者とその家族の生活に



も大きな傷跡が残されました。

組合員2名 亡くなる

何よりも悲しいことは組合員2名が亡くなられたことですが、一方、家族や親族が被災に遭われ、いまだに行方不明の方も多数います。あらためて被災されたすべての

関係者の皆さんと国労組合員・家族、JRで働く仲間とその家族の方々に心から哀悼とお見舞いを申し上げます。



今後の日程

第80回国労本部全国大会

7月28・29日

第25回国労東日本本部定期大会

9月6・7日

全国大会・東日本本部定期大会の日程が決定しました。地本は5月27日(金)に選挙管理委員会を設置しました。

各大会の会場など詳しい内容については後日連絡します。



集約されたカンパ 見舞金として

関係地本へ

集約されたカンパについては、4月4日・5日に関係する地方本部に見舞金として手渡し、組合員の被災救済については、関係する地方本部や全国交通共済などと連携をとりながら、中長期的な展望にたつて対策を進めています。

支援物資についても多く集まりました。闘争団からも義援金として、九州闘争団、札幌闘争団から寄せられています。

国労本部は、5月13日の全国代表者会議において、被災者の復興生活支援などについては、今後中央・地方などで継続した支援・激励ボランティア活動等を通じて組織として積極的に取り組むことを確認しました。そのうえで、本部に設置した「国鉄労働組合東日

本大地震被災対策本部」は5月14日をもってその任務終了するとともに、今後の支援対策は、従来通り、中央執行委員会が直接対応していくこととします。

大地震発生以来、今日までご尽力された各級機関、組合員の皆さんの献身的な支援と対応に心から敬意と感謝を申し上げますとともに復興までの更なるご協力をお願い致します。

(写真はエリア本部ホームページに記載されている写真を載せました。)



編集後記

5月も終わり、6月に入ります。今年も半分まで差し掛かりました。JR不採用問題については、雇用問題について3月末、解決として取り組んできましたが、大震災によって延びています。

通常国会は6月22日までです。本部は国会会期末までに解決させたいと5月13日の全国代表者会議で説明しました。



文芸特集

山脈集推薦作品

大関ただし

選

今回は「鉄道川柳」平成11年5月号の山脈集推薦作品です。いかがでしょうか？

川柳は、その時、それぞれの時代背景や作者の年齢など～反映されると思います。

あなたもどうですか？この文芸特集に投稿してみませんか？俳句・短歌詩～などお寄せください。お待ちしております。

(地本 教宣部)



平均点取って個性が消えてゆく	藤原正秀	毒舌は言うまい嫉が増えるから	池永龍生
悔しさはない完敗の汗だもの	木下草風	本心をたたんで義理の道に生き	細田功
五体満足なのに足りない物がある	森本吉則	出発進行もう迷わない軍手	田中道博
座りだこ嶽だこ父母は笑うのみ	佐藤曙光	だまされぬ女になって来た顔だ	両川洋々
八起き目へ挑む男の炎は滾る	笠原高二	馬鹿になることもおぼえてらくになる	曾我竹波
泥くさい言葉を吐いて右派にいる	高橋朗風	咲ききって花の骸の罪のかたち	藤井比呂夢
不可能という字を知った鬼の面	大村美千子	負けて勝つ利口な妻になって老け	小島宏
割り切れぬまま打つてある句読点	永井悠々	補聴器をつければいやな風ばかり	渡辺正治
梅漬けておんなひたすら我慢する	宮崎凡醉	シャボン玉空の青が見えますか	従野健一

新聞のつくいかた



本文の言葉が基準

記事本文の言葉が基準です。よく読んで、記事のヤマを見つけれ。そのヤマにそって、メモをとります。メモの中から、さらに選択する。短くまとめる。内容を整えます。

主観と客観

見出しの与える気分に触れてみましょう。主観見出しと客観見出しという区別です。つけるとき、ちょっと考えてみましょう。それは、あくまで記事の内容によって決まりますが、見出しの言葉として感情がむき出しに「激」として、「劇」的な言葉を選ぶ場合と、あくまで冷静に事実による言葉を選ぶ場合があります。

文字量は50%以内
レイアウトする

B4版なら3〜5本

B4版の手書きの新聞なら、記事本数は3〜5本と考えます。あまり少ないと記事だけの紙面になってしまい文字量が多く読みづらくなります。

逆に多ければよいのかというとそうではありません。肝心の記事が少な過ぎて、見出しばかりが目立つたりします。複数の性格の違う記事を適当に入れるのがポイントと考えましょう。

文字量は40%〜50%

文字量も読まれるレイアウトを作る上で大切な問題です。本文文字量を40%〜50%内に抑えた紙面は読みやすいです。残りの60%〜50%は見出し、野線、カットや写真、図版類などで処理します。

